

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) SBDS interacts with RNF2 and is degraded through RNF2-dependent ubiquitination	共著	2022年2月	Biochem. Biophys. Res. Commun 598(2022)119-123	Shwachman Diamond 症候群発症の原因遺伝子 である SBDS と相互作用するタンパク質を探 索し、RNF2 であることを見いだした。RNF2 が SBDS に結合すると共に、タンパク質分解系に 誘導することが判明した。 Yukihiro Sera, Miki Sadoya, Tkashi Ichinose, Shinji Matsuya, Tsuneo Imanaka, <u>Masafumi Yamaguchi</u> . 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) 初年時学生の不安および期 待因子の変容に関するテキ ストマイニング分析	共著	2022年3月	広島国際大学基盤 教育センター紀要. 第6号(2021)21.	新入生が入学時、そして前期終了後に抱いて いる不安と期待について、テキストマイン に解析を行った。大学における教育が進行す るにつれて、不安、そして期待が異なるため、 それぞれの時期に適した指導が有効である。 兒玉安史、 <u>山口雅史</u> 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (学術論文) TBL を用いた教育力、能動的 な学修力、コミュニケーション 力の可視化.	共著	2022年3月	広島国際大学基盤 教育センター紀要. 第6号(2021)31.	TBL を実施することにより、ディプロマ・ポリ シーに挙げている、教育力、学修力、コミュ ニケーション力を可視化できることを示し た。 <u>山口雅史</u> 、井口裕介、宇根瑞穂、大西勇氣、神 垣真由美、清家総史、世良行寛、瀧野純一、平 尾雅代、山下ユキコ。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (学術論文) 学習成果と関連する行動因 子の探索.	共著	2021年3月	広島国際大学総合 教育センター紀要. 第5号(2020)21.	学修指導を容易にするために、学習成果と関 係する行動因子の探索を行った。性格5因子 の良識性と、セルフコントロール尺度を測定 することにより指導が可能であることを示した。 <u>山口雅史</u> 、兒玉安史、笠岡 敏、藤田 貢、堀 隆光。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (学術論文) Aeromonas sobria serine protease decreases epithelial barrier function in T84 cells and accelerates bacterial translocation across the T84 monolayer in vitro	共著	2019年8月	Plos One 14(8):e0221344	アエロモナスのセリンプロテアーゼが、培養 細胞層を分解することを解析した。プロテア ーゼは上皮細胞の nectin-2, afadin を分解 することにより、アエロモナスが上皮細胞間 を移行する可能性を示した。 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出 不可能。 Hidetomo Kobayashi, Soshi Seike, <u>Masafumi Yamaguchi</u> , Mitsunobu Ueda, EIso Takahashi, Keinosuke Okamoto, Hiroyasu Yamanaka

2022年9月7日現在